平成27年8 月25日

参考資料

**大阪府まち・ひと・しごと創生推進審議会（有識者会議）での主な意見**

**第1回　（6月30日）　骨子案についての審議**

【人口ビジョンについて】

* 大阪で大学生活を送った方々が、大阪で就職、結婚、出産し、そのまま大阪で暮らしてくれることが、30代の流出超過を緩和してくれるのではないか。
* 東京一極集中に対して、どういう考え方をベースに置くのか。京都や神戸と足の引っ張り合いになってしまうのであれば、本末転倒。同様に府域内での人口の奪い合いもすべきではない。
* 将来展望において、出生率は国の仮定値を使っているが、大阪の場合、平均より下回って、より低い数値で推移している。より現実に近い形で、府として仮定値を置いて幅をもってみる等の検討が必要。
* 東京への転出状況を個人だけでなく、世帯でみる観点も必要。転出入の原因を分析すべき。

【まち・ひと・しごと創生総合戦略】

* 次世代産業の育成が必要。将来、大阪の柱になる産業を作っていく必要がある。
* 若い人たちが東京に行って大企業で勤めるよりも、大阪にいて、中小企業に就職すれば、こんなに地元密着型でいい暮らしができるというイメージを示す必要がある。
* 「大阪」が前面に出ているが、「関西」としての視点が必要。
* 社会変化・経済成長を見据え、尖がったクリエイティブなブランド力をつくり、大阪の良さを検証していく必要がある。
* 大阪は中小企業が多い。若い方の活躍できる場であることが分かるように、イメージアップしていく。
* 大阪が抱える問題として、貧困や、女性の労働力向上に向けた賃金の問題がある。労働条件の改善を行い、府全体の力を上げていくための検討が必要。

**第2回　（8月18日）　素案についての審議**

【人口ビジョンについて】

* 詳細な分析が加わり、充実した内容となっている。
* 30～39歳の東京圏への人口流出がなぜ多いのか、更なる分析が必要。（転職・転勤の内訳はどうなっているのか、なぜ転職したのかなど）
* 大阪は年収300万円未満の世帯が全国と比べて多いが、高齢者世帯も入っていることから注意が必要。また、非正規の多さが直ちに低所得者層に結びついているとは言えない。

【まち・ひと・しごと創生総合戦略】

* 全体としてはよくまとまっている。
* 大阪は多様な働き手がいるのが特徴で、多様な主体がしっかり活躍する場が必要。第4章では「住みやすい×働きやすい」が大阪の強みとされているが、大学や様々な産業があるのに、能力のある人はなぜ定着しないのか。実感としての働きやすさや住みやすさについてさらに深堀する必要がある。
* 基本目標⑥の目標値（東京圏への転入－転出数：▲10,905人（Ｈ26）⇒前年を下回る）について、前年を数で下回るという目標はおかしい。全人口が減る中で、目標の立て方を検討すべき。
* この戦略を府民が見て、一緒に協力して取り組めるかが重要。PRの手法も含め検討が必要。